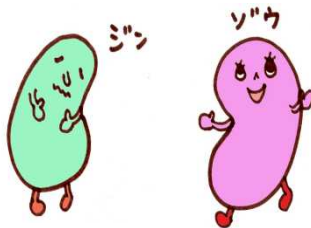


平成26年12月5日 資料

熊本市の予防・健康づくり活動 『CKD(慢性腎臓病)対策事業を中心に』



(熊本市CKDイメージキャラクター)

熊本市健康づくり推進課

本日の説明内容

- 1 本市の健康増進計画について
- 2 CKD対策の背景
- 3 CKD対策の取組(2009~2013)
- 4 CKD対策の結果と今後
- 5 その他の取り組み
 - (1) 職域保険と連携したがん予防の取組み
 - (2) 小学校区単位の健康まちづくり

熊本市のプロフィール

- ・人口 740,204人
- ・面積 389.54 km²
- ・平均気温 16.9 °C
- ・平均降水量 1985.8 mm
- ・高齢化率 22.6%
- ・合計特殊出生率 1.49人
- ・平均寿命 男性80.9歳
女性87.1歳

・市の抱える健康課題

熊本市は、年間平均気温16.9°Cと温暖でまた、74万市民の水道水源を全て地下水で賄っている。これは人口50万人以上の都市としては日本唯一である。

このような水の豊かな熊本市では透析導入者数が全国的に最も高い水準にある。



健康くまもと21基本計画 (熊本市健康増進計画)

目指すもの (理念)

全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる

基本目標

健康意識の醸成

健康分野における地域コミュニティづくり

健康寿命の延伸

基本的な方向と取り組み項目

①生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

がんの予防
循環器疾患の予防
糖尿病の予防
CKD対策

③健康づくりを進める
生活習慣の改善と環境づくり

栄養・食生活

身体活動・運動

休養

飲酒

喫煙

歯・口腔の健康

②社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

こころの健康
次世代の健康
働き盛り世代の健康
高齢者の健康

④健康を支え守るための社会環境整備

小学校区単位の健康まちづくり
健康づくりを支えるボランティアの育成・支援
企業・大学等の健康づくり活動の促進

熊本市のCKD対策



すべての市民が生涯を通して
住み慣れた地域でいきいきと
暮らせるまちを目指して

～ネットワークで守る市民の腎臓（そらまめ）～

熊本市健康づくり推進課

CKDとは、

急性糸球体腎炎
慢性糸球体腎炎
IgA腎症
糖尿病性腎症
腎硬化症
痛風腎・・・etc.



- ★患者さんに理解しやすい！
- ★専門医でなくても理解しやすい！

なぜ、CKDは重要なのか

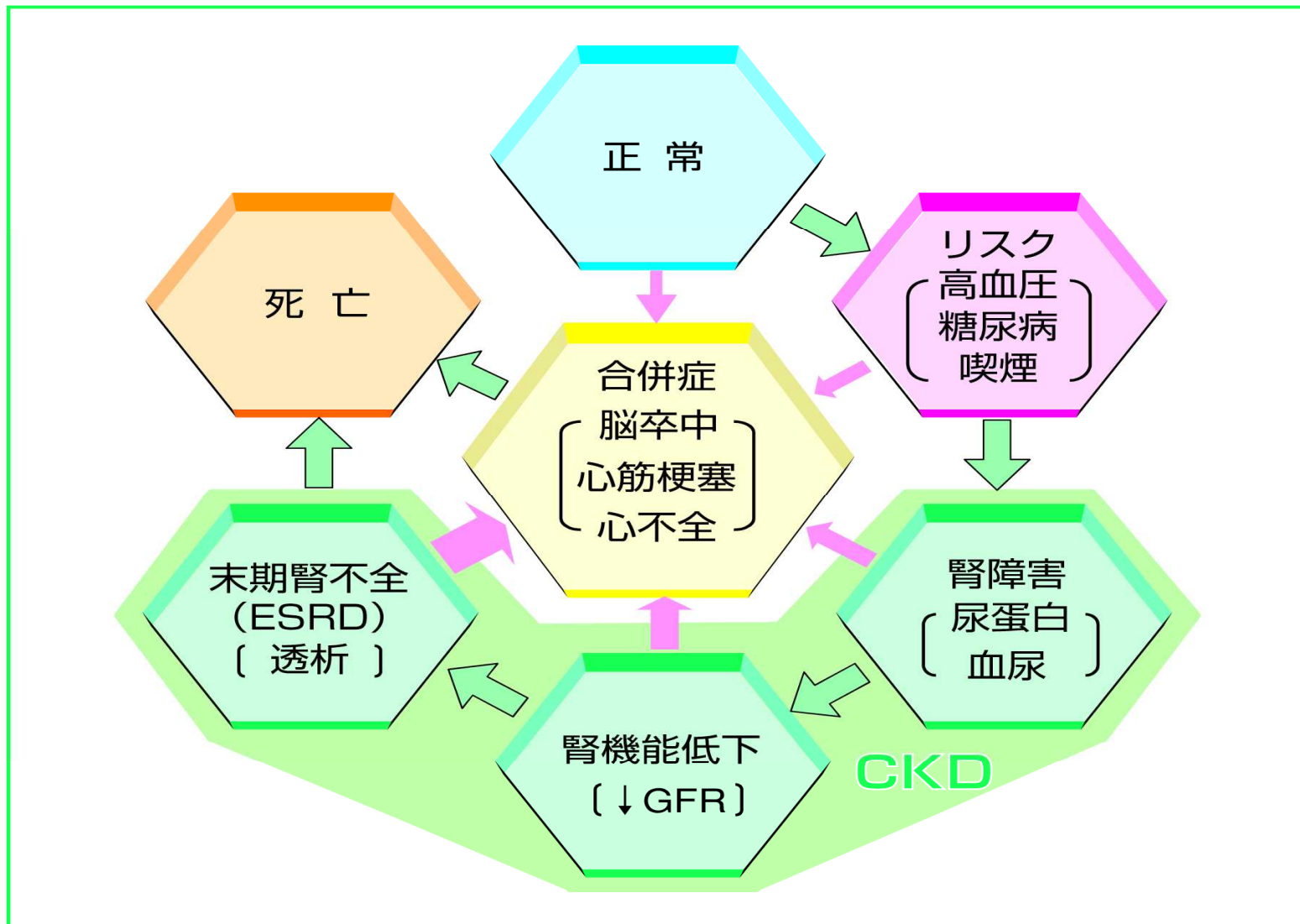
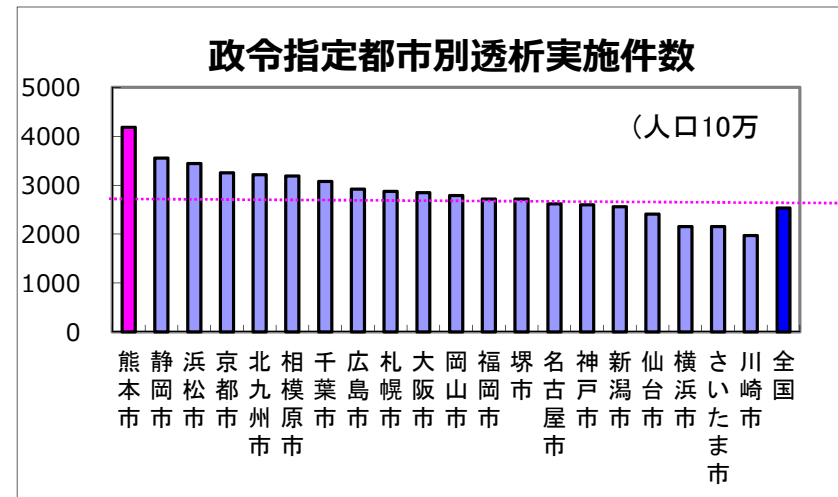


図 10 CKD の発症と進行の概念

CKD対策の背景

・平成21年度事業開始当初、本市の人工透析導入者数は人口比で**全国平均の1.47倍**と最も高い水準にあり、新規透析導入者は**年間295人**に上っていた。

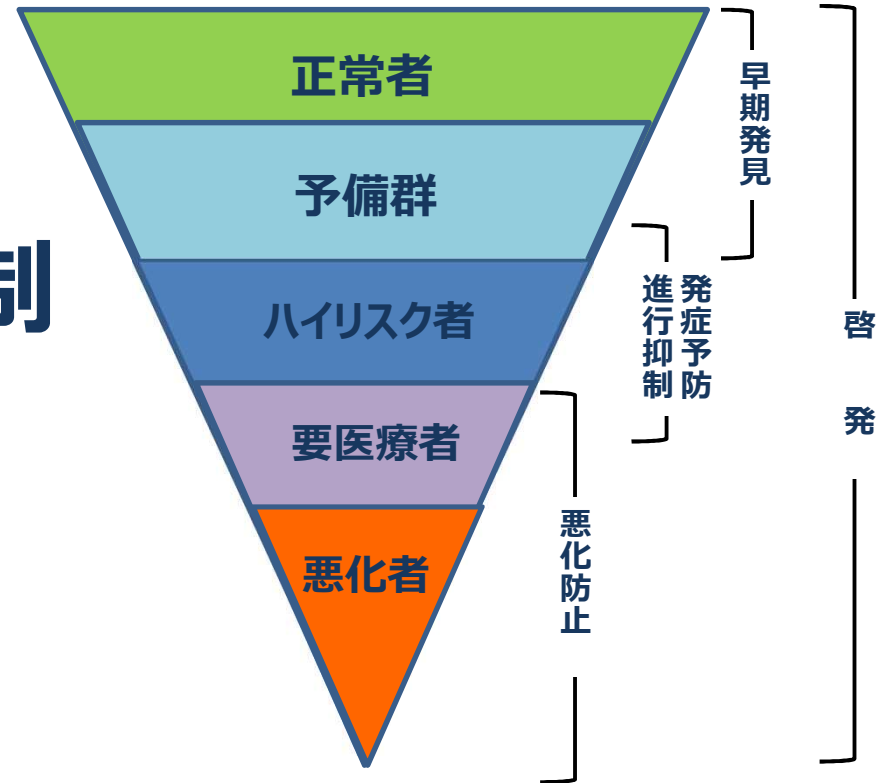
・このため、熊本市は「CKDを熊本市民の重要な健康課題」と位置づけ、人工透析の新規導入者割合を5年間で**全国平均（実数で200人）**まで低減化することを目標に掲げ、平成21年度から**CKD対策を開始した。**



CKD対策の取組(2009~2013)

対策のアプローチ（4本柱）

- 啓発・早期発見
- 発症予防・進行抑制
- 悪化防止
- 推進体制の整備



■ 啓発・早期発見

① 各種啓発媒体



バスカード



くまもと減塩美食メニュー



健康づくりできます店ガイドブック



懸垂幕

■ 啓発・早期発見

- ② 市主催のイベント 32回 約4万人
- ③ 関連講演会 19回 約3千人
- ④ 各区啓発 2,062回 約6万人



糖尿病学会イベント



競輪場でのイベント



動物園でのイベント

■ 啓発・早期発見

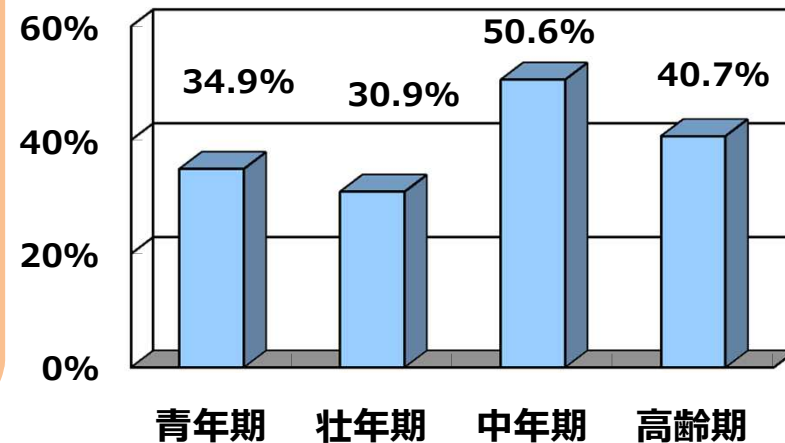
CKDの認知度（平成23年12月実施）

アンケートは、平成23年度に本市の健康増進計画である「健康くまもと21基本計画」の目標値測定において無作為抽出で行っている。

平成27年度に再度無作為アンケートを実施する予定である。

イベント等で実施したアンケートにおける認知度では、70%を超える値も出ており、次年度実施の無作為アンケート結果に期待しているところである。

健康くまもと21アンケート結果



青年期	18～24歳
壮年期	25～44歳
中年期	45～64歳
高齢期	65歳以上

調査数	83人	194人	241人	425人	943人
認知している人数	29人	60人	122人	173人	384人
認知している割合	34.9%	30.9%	50.6%	40.7%	40.7%

■ 啓発・早期発見

① 特定健診受診率向上への取り組み

- ・ 特定健診実施機関からの未受診者への**受診勧奨**
(国保実績：約29万件)
- ・ 国保特定健診受診案内様式変更
(腎機能注意書追加)

② 腎機能評価のための**eGFR値算出促進**

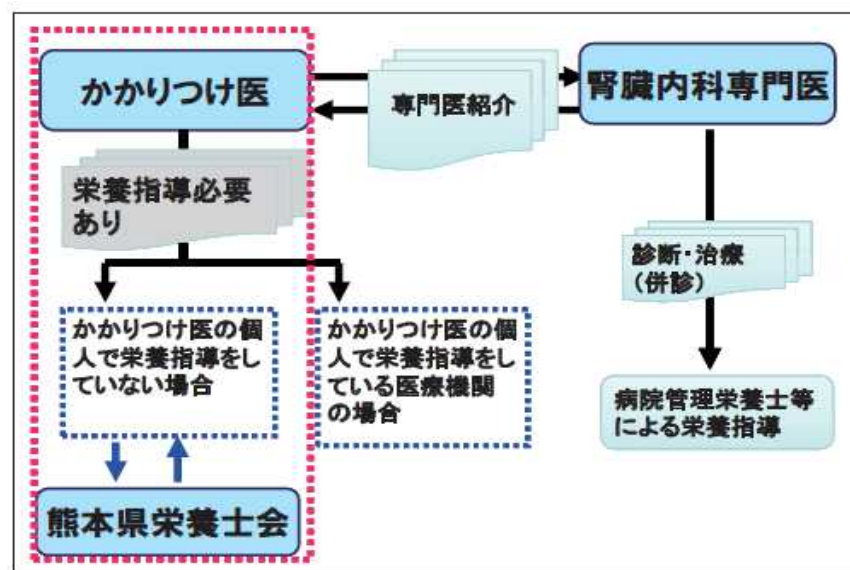
特定健診の個人結果通知にeGFR値を記載する旨、各衛生検査所への働きかけ（7箇所中7箇所）

■ 発症予防・進行抑制

① CKD 予防教室の開催及び保健指導の実施
(対象者 4,904人 参加者数1,890人 参加率38.5%)

② 熊本市 CKD 対策推進「病診連携医」登録制度の創設
(内科医標榜の64.6%)

③ かかりつけ医と栄養士との
栄養連携システム
(H24,25年実績
合計 2,442件)



▲イメージ

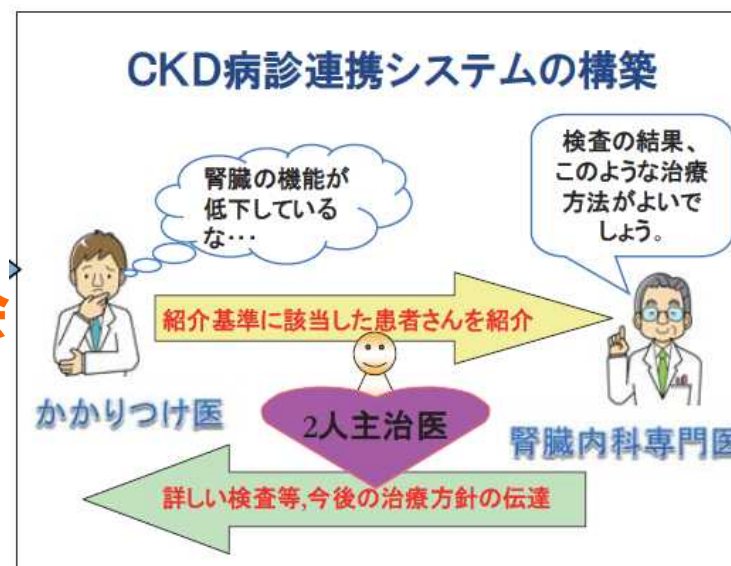
■悪化防止

① 腎機能悪化者・重症高血圧・糖尿病者への受診勧奨

- ・ 国保特定健診結果に基づく受診勧奨
(CKD2,668件 重症高血圧434件 糖尿病2,439件)

② かかりつけ医と腎専門医の連携システムの構築

- ・ 熊本市CKD「病診連携プロジェクト会議」の設置
- ・ 専門医紹介基準（市版）、紹介状・再紹介チェックシート様式の作成、腎臓専門医の所属する施設リストの作成
- ・ 熊本市CKD病診連携説明会の開催
(14回 1,190人(うち医師975人))



② 熊本市CKD対策推進協力団体募集

協力団体17社 (H26.3現在)

- 〔協力内容〕
- ・積極的なCKD対策推進の啓発活動
 - ・CKDの予防や健康づくりに関する情報提供
 - ・その他熊本市のCKD対策の推進に関すること

③ 区役所単位の生活習慣病ネットワーク連絡会

生活習慣病等の健康課題に関する情報共有、意見交換

メンバー：市医師会、区役所及び国保職員

H23～H25 660人

④ コメディカル研修会

CKD対策を総合的に推進していくため、

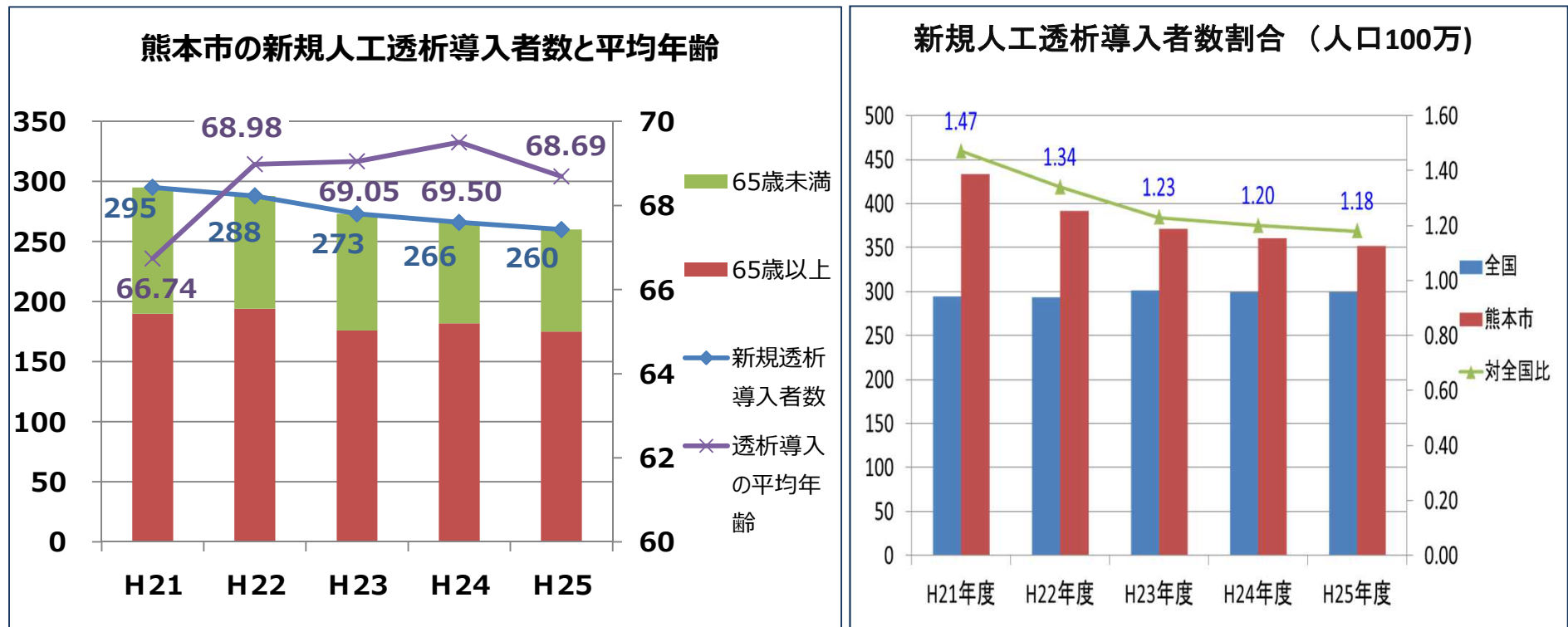
様々な医療専門職との情報提供、

情報共有メンバー：熊本市CKD対策推進会議メンバー

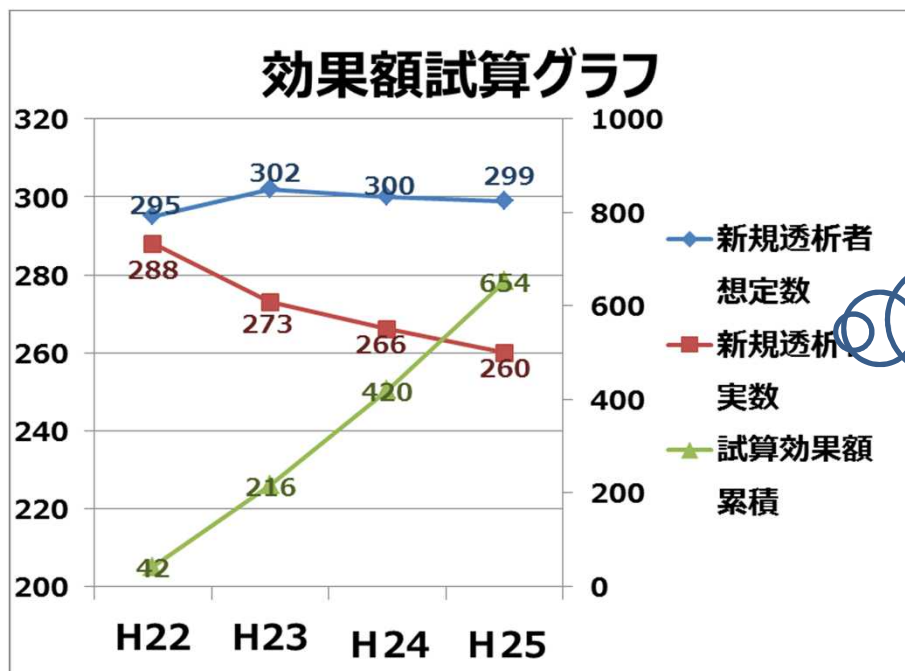
の中の医療従事者 全9回 640人

CKD対策の結果

これまでの取り組みにより、新規透析導入者が平成21年度**295人**から、平成25年度には**260人**と減少し、導入平均年齢も**66.74歳**から**68.69歳**と1.95歳高くなった。また、新規透析導入者割合も全国と比較すると**1.47倍**から**1.18倍**と低減化した。



● 効果額試算



試算効果額は
6億5千万円超!!

※試算に当たっては、平成21年度の新規透析導入者：295人に国の新規透析導入者の伸び率を乗じ、平成22～25年度新規透析者想定数を算出。各年度の新規透析者実数との差を基に、効果額を試算。（新規透析費用は6百万/年と設定）

【参考：全国の新規人工透析導入者数】（単位：人）

	H21	H22	H23	H24	H25
全国	37,543	37,532	38,474	38,165	38,024
/伸び率	-	0.0%	2.5%	-0.8%	-0.4%

「第3回健康寿命をのばそう！アワード」受賞



【生活習慣病予防分野】 H26.11.18

厚生労働大臣賞 優秀賞 自治体部門

健康局長 企業部門 優良賞 表彰	生活習慣病予防分野 表彰
健康局長 団体部門 優良賞 表彰	
健康局長 自治体部門 優良賞 表彰	
保険局長 優良賞 表彰	
厚生労働大臣 企業・団体・自治体部門 優秀賞 表彰	
厚生労働大臣 最優秀賞 表彰	介護予防・高齢者生活支援分野 表彰
老健局長 企業部門・団体部門・自治体部門 優良賞 表彰	
厚生労働大臣 企業・団体・自治体部門 優秀賞 表彰	
厚生労働大臣 最優秀賞 表彰	

CKD対策の今後

本市のCKD対策は開始から**5年が経過し、一定の成果は上がっている**。しかしながら、新規の透析導入者割合を全国並みに引き下げる**目標の達成には至っていない**。

これまでの取り組み継続に加え、**再調査結果から見えた課題の改善に向け、関係機関との連携した取り組み**や生活習慣病の健診後のフォロー、医療機関向けの研修の強化等を行いながら、今後もCKD対策を進めていきたい。

■ 関係団体へCKD対策の課題についての再調査結果

	平成21年度	平成26年度
一般市民に対するCKDに関する認知度アップと理解の普及	1	1
医師のCKDに対する理解の浸透	2	5
特定健診の受診率向上対策の推進	3	2
生涯を通じたCKD予防の仕組み	4	3
治療放置者も含め要医療者への対応の充実	5	6
専門職のCKDに関するスキルの向上	6	9
健診後の指導等の徹底	7	4
健診システムの課題	8	11
保健指導の充実	9	8
病診連携システムの改善	9	12
その他 ※	-	7
無回答	-	10

※その他：学校教育におけるCKD対策の徹底、小中学校からの食教育、一般市民・医療従事者に対する糖尿病腎症の認知度アップと理解の普及、歯科疾患との関係、かかりつけ医の温度差が大きい等

1 CKDに関する認知度アップと理解の普及 啓発イベント、校区単位での啓発の継続

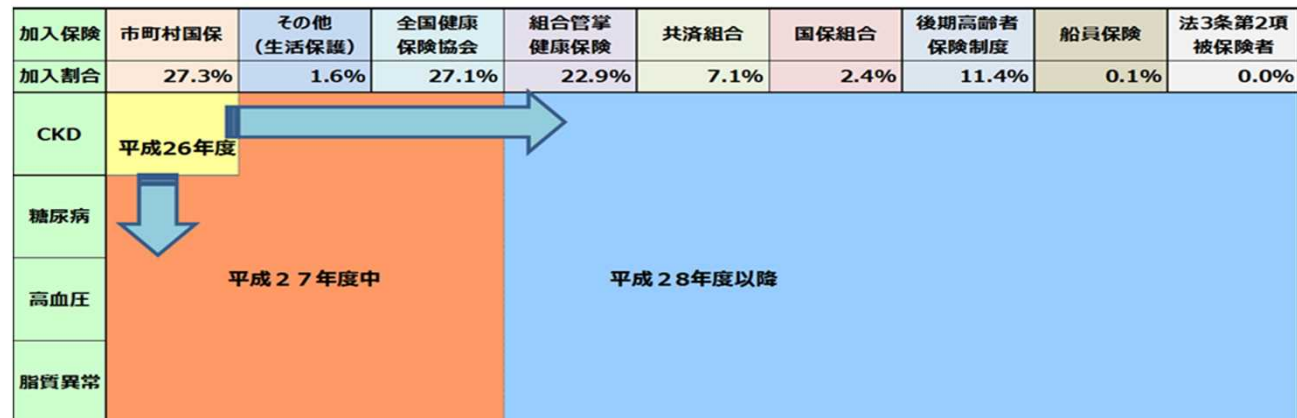
2 特定健診の受診率向上

国保年金課との連携と併せ、包括協定を結んでいる協会けんぽ（全国健康保険協会）や推進会議メンバーである保険者との連携強化

3 生涯を通じたCKD予防の取り組み

CKDの危険因子となる生活習慣病対策のため減塩食レシピ作成、各区役所において糖尿病や高血圧等の予防教室等の実施

平成27年度熊本市生活習慣病等対策事業（案）



その他の取り組み

健康くまもと21基本計画（熊本市健康増進計画）

目指すもの（理念）

全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる

基本目標

健康意識の醸成

健康分野における地域コミュニティづくり

健康寿命の延伸

基本的な方向と取り組み項目

①生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	（1）がんの予防 循環器疾患の予防 糖尿病の予防 CKD対策	③健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり 栄養・食生活 身体活動・運動 休養 飲酒 喫煙 歯・口腔の健康					
	②社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上						
④健康を支え守るための社会環境整備	（2）小学校区単位の健康まちづくり 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援 企業・大学等の健康づくり活動の促進						

(1) 職域保険と連携したがん予防の取り組み

1 熊本市がん対策企業等連携協定

**10社と締結し、がんに関連する啓発活動を展開
(がん予防及びがん検診等の情報提供、従業員研修
会の開催、イベントの協賛等)**

2 熊本市・協会けんぽ健康づくり協定

- ・医療費、検診データの共同分析**
- ・イベントへの共同参加、ラッピング電車や新聞への協同広告等**

(2) 小学校区単位の健康まちづくりの取り組み

H24年度～ 全校区展開へ (94校区)

校区単位の健康まちづくり

住民協働による健康づくりをテーマとしたまちづくり

- 小学校区を単位
- 区役所⇒まちづくりの拠点
区役所の関係課が連携
- モデル事業のプロセス
(PDCAサイクル) をベースに
- 全庁的に取り組む
(本庁関係課も連携)

健康寿命の延伸

